令和８年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立ひまわり特別支援学校 ）　　学校番号　３０１　　【様式】

学校教育目標	かがやく子　～今も　未来も～　明るい子　元気な子　学ぶ子
目指す学校像	子ども一人ひとりの可能性を伸ばし、自立と社会参加を目指した力を育む学校

重点目標	１　児童生徒一人ひとりの障害の状態等に応じた個別最適な学びと協働的な学びの充実（学力向上） ２　将来において社会的な自己実現ができるような資質・能力・態度を形成する（子どもの発達） ３　学校と家庭、地域、関係機関と連携・協働した学校づくり（地域とともにある学校づくり） ４　安心・安全な学校生活のための教育体制や環境の整備（教育環境の整備、安心・安全） ５　特別支援教育の専門性を向上し、チームで取り組む人材育成（教職員の資質向上）

※重点目標は５つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 学びの質の向上に関する取組	（現状） ○個別の指導計画を踏まえた指導を行っている。学校課題研究では、自立と社会参加を目指した力を育むように、「児童生徒がキラリとかがやく授業づくり」を通して、「学んだことを活かして自分の思いを表現できる児童生徒の育成」に取り組んでいる。 （課題） ○学校課題研究をさらに推進させ、ICT の活用を含めて、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの推進をしていく必要がある。 ○カリキュラム・マネジメントを行い、知的障害教育部門高等部の教育内容の修正をする必要がある。	・個別最適な学びと協働的な学びの授業実践を行う。	①「学習到達度チェックリスト」や、本校独自に作成した「授業評価シート」を活用し、授業づくりや授業改善等を行う。 ②授業において、児童生徒の実態に応じて効果的かつ積極的に ICT を活用する。	①保護者アンケートにおいて、授業関連項目のＡ評価が 78%以上となったか。 ②教職員アンケートにおいて、ICT 活用に関する項目のＡ評価が 59%以上となったか。				
		・知的障害教育部門高等部の教育課程の定着に向けて、教育内容の修正を行う。	①教育課程検討委員会を学期に１回以上実施する。 ②知的障害教育部門高等部において教育内容の修正を図るとともに、就労に向け実習等を充実させる。	①保護者アンケート（知的障害教育部門）において、個別の指導計画に関する項目のＡ評価が 59%以上となったか。 ②教育内容の改善点を基に年度末までに次年度の指導計画を作成することができたか。				
2 子どもの発達や心のサポートに関する取組	（現状） ○複雑化、多様化する児童生徒の状況を踏まえて、福祉機関との連携等、教育相談体制を整備し、子どもの発達や心のサポートに向けて取り組んでいる。 （課題） ○教育活動全体を通じて、人間関係を築く力や自他の生命尊重等、児童生徒の豊かな心を育成していくために、居住地校での交流など他者との交流を今後も継続させていく必要がある。	・学部間を超えた交流や居住地校等との交流を強化する。	①小学部、中学部、高等部の垣根を超えた交流を積極的に行うとともに、居住地校等との交流及び共同学習を強化する。	①居住地校等との交流及び共同学習を学校地域連携コーディネーターと連携し、昨年度の交流実績数を上回ることができたか。				
		・SC や SSW と連携し相談環境の充実を図る。	①教育相談主任、SC や SSW と連携し相談環境の充実を図る。 ②知的障害教育部門高等部においては「心と生活のアンケート」等をもとに生徒の心の状態を把握する。	①保護者アンケートにおいて、教育相談に関する項目のＡ評価が 81%以上となったか。 ②校内支援委員会を学期に１回以上開催することができたか。				
3 地域とともにある学校づくりに関する取組	（現状） ○学校運営協議会において、学校、家庭、地域との連携・協働について熟議を行い、挨拶運動や作品展等、充実したかかわりをもつことができている。 （課題） ○地域資源を活用した教育活動の充実を図るために、地域との連携・協働体制の整備が必要である。 ○地域の特別支援教育のセンターとして、本校の取組について情報発信の更なる充実が必要である。	・学校運営協議会でビジョンを共有し、地域との連携・協働について協議する。	①学校運営協議会において、学校、家庭、地域との連携・協働について熟議を行った結果を効果的に発信する。 ②学校、家庭、地域等が連携・協働した新たな教育活動を実施する。	①保護者アンケートにおいて、関連項目のＡ評価が 77%以上となったか。 ②学校、家庭、地域等が連携し、「ひまさきプロジェクト」を更に発展させることができたか。				
		・市内への本校の取組や特別支援教育についての情報発信に努める。	①各種通信や HP 等について学校の教育活動等の取組について積極的に情報発信をする。 ②特別支援学校のセンター的機能を発揮し、特別支援教育に関する取組等の情報発信を行う。	①保護者アンケートにおいて、関連項目のＡ評価が 85%以上となったか。 ②教職員アンケートにおいて、センター的機能に関する項目のＡ評価が 54%以上となったか。				
4 教育環境の整備に関する取組	（現状） ○学校全体で事故防止に努めている。ヒヤリハット事案については必ず全教職員で情報共有をしている。 ○主治医作成の指示書をもとに、看護師と担任が連携して安全な医療的ケアの実施を行っている。 （課題） ○安全で健康な生活を送れるように教育体制と環境整備を進める必要がある。さらに、学校、家庭で協働して、児童生徒の安全に留意していきたい。 ○児童生徒の状態に応じた組織的な教育支援体制のさらなる充実が必要である。また、職員間の報告・連絡・相談・見届けの徹底が必要である。	・考え得るリスクについて未然防止と危機管理体制の確立を行う。	①ヒヤリハット事案の蓄積と分析により検討した対応策を全教職員で情報共有する。 ②毎月の校内の安全点検を実施するとともに、発見した危険個所については迅速に対応する。	①危機管理委員会においてヒヤリハット事案を分析し、全教職員に傾向と対応策を情報共有することができたか。 ②保護者アンケートにおいて、安全の関連項目Ａ評価が 88%以上となったか。				
		・児童生徒一人ひとりの障害の状態に応じた教育支援体制の充実を図る。	①年間３５回以上の学部主任会を実施し、全校児童生徒一人ひとりの健康状況及び支援に関する情報共有を確実に行う。 ②必要に応じて関係機関と連携を図るとともに、各学期１回以上の校内支援委員会を実施する。	①主任会を年間３５回以上実施し、児童生徒に関する情報共有ができたか。 ②校内支援委員会を各学期１回以上実施し、情報共有及び支援方法の検討を行うことができたか。				
5 教職員のキャリア形成に関する取組	（現状） ○児童生徒がキラリとかがやく授業づくりを目指し学校課題研究を進めている。 ○会議の精選やデジタル化、ペーパーレス化をはじめ、業務改善に取り組んでいる （課題） ○教職員一人ひとりのキャリアや担当する児童生徒の障害の状態等に応じた専門性を向上させる必要がある。 ○子どもの幸せを保障する上で、教職員一人ひとりのウェルビーイング向上に向けて、業務量管理・健康確保措置に努める必要がある。	・特別支援教育の専門性の向上に向け、学び続ける教員を育成する。	①キャリア振り返りシートや特別支援教育専門性向上シート等を活用した対話に基づく研究奨励を行い教員個々の課題研究に取り組む。 ②障害部門や学部を越えたユニットを構成し、主体的かつ協働的に授業研究に取り組む。 ③教職員が年間を通じて実施していた職務について業務量の削減、効率化を図るとともに、健康確保のため時間外在校等時間の状況により、校長によるヒアリングを実施する。	①教職員アンケートにおいて、研修に関する項目のＡ評価が 48%以上となったか。 ②教職員アンケートにおいて、授業改善に関する項目のＡ評価が 48%以上となったか。 ③市教委「勤務に関する意識調査」職場の風通しの関連項目 A 評価 36%以上にする。				